

令和 8 年 6 月定例会議 一般質問【平日議会】

10 番議員 山下 純夫

高齢者の健康をサポートする町の体制を問う

本年 3 月に公表された「開成町福祉コミュニティプラン」によれば、令和 7 年時点での本町の高齢化率は 26.8%であり、県西地区平均 33.5%よりはかなり低いものの、神奈川県の前平均値 26.0%を上回っている。

こうした状況を背景に令和 3 年から令和 7 年までの介護サービス諸費は年率平均 6.38%の高い水準で増加している。

同様に後期高齢者の一人当たりの医療費は県平均を上回り、最も低い自治体より年間 22 万円も高くなっている。

「開成町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」(令和 7 年 3 月改訂)によれば、増加し続ける高齢化率は 2040 年には 30%を超えると推計され、増加する高齢者にかかる介護保険・後期高齢者保健等に掛かる高額な医療費の抑制は喫緊の課題である。

しかし、住民の健康維持と医療費の抑制に貢献する後期高齢者健診の受診率は長らく県内ワーストであり、現在も下から 2 番目である。

そこで次の項目について町の考えを問う。

- 1 後期高齢者の健診受診率向上策は。
- 2 町民の健康寿命延伸策及び人生の終末期を自分らしく迎えるためのアドバンス・ケア・プランニング普及促進策と現状は。
- 3 それらの実行する職員の体制強化の見込みは。